
俺と俺の愛おいしい人 ～勘違いは災いの始まり～

三原煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺と俺の愛おしい人　く勘違いは災いの始まりく

【Nコード】

N6939B

【作者名】

三原煉

【あらすじ】

俺には愛おしい人がいる。だが、心を通じることはない。てか、一方通行。そもでもって、俺の勘違いが多い。おかげで今回の事件も起こったのであった。

昔から勝てない奴がいた。

笠霧^{スミレ}——どこか俺より大人って感じで憎たらしい。でも、それでいて、愛おしく可愛い。

まあ、彼女の前で可愛いなど言ったら、半殺しにされるだろう。照れ隠しと言う名の愛の鞭。そんな事に慣れている俺にとっては例え殴られたって、蹴られたって、投げ飛ばされたって、君の愛は変わらないだろう。

ある日、そんな彼女とばったり会った。同じ学校に通っているのだから、偶然会うのは当たり前であろう。

「よお」

「ん」

ちよっとした挨拶はした。まあ、高校生の男女のコミュニケーションはこんな感じであろう。

歩いていく。歩いていく。

「……ついてこないでよ」

「仕方ないだろ、家、こっちなんだから」

小学校から一緒の俺達は家も近所である。なので、帰り道は同じ方角。

「どつか寄り道すればいいじゃん」

「なら、お前が寄り道しろよ」

「今日は早く帰らないといけないの」

たわいもない会話が続く。この会話の時間が俺にとっては至福であつた。彼女にとってはどうでもいい時間であろう。

ふと、彼女が足を止めた。

「おい……」

俺は彼女に話しかけようとしたが、彼女が止めた。俺は彼女の視

線の先を見た。そこにはいかにも不審者と言わんばかりの男性がいた。

——そういうことか——

俺は彼女が行動を起こす前に動いた。ここで彼女にいい所を見せられないと思ったからだ。

「ちよっ、待っ……！」

彼女の制止を振りきり、俺は不審者に近づき、先手必勝の飛び蹴り。

クリーンヒット！

不審者の脇腹に俺の左足が当たり、その場に崩れた。俺は重力によつて、不審者の上に乗っかる形になって、地面に落ちた。

「いててっ……」

俺が体勢を立て直そうとした時、彼女が近づいてきた。俺は抱きしめてはくれないだろうが、手は貸してくれるだろうと思っていた。だが、それは甘い考えだった。

「おい……」

彼女は俺の胸倉を掴んで黄金の右パンチを俺の左頬にヒット。

「私の弟に何しやがるんだ！」

弟……そういえば、彼女には弟がいた。とっても綺麗な顔していて、幼いころからモデルなどをやっていた。彼女と比べると、かなり女っぽかったのを覚えている。

そんな事を考えている最中も彼女の怒りは収まることはなく、俺に殴りや蹴りが飛んでくる。

ああ……痛いけど、快感だと思う俺はマゾなのか……。

「董姉さん、その辺にしておいてあげなよ」

怒りまくっている彼女に声をかけたのは彼女の弟。

「だが、凍夜^{トウヤ}」

「後片付けする僕の身になってよ」

「……すまない」

「いいんだよ……え〜っと、原さんだっけ？」

凍夜君が俺に近づく。身長は俺よりちょっと高めだが、細い体系で顔立ちはやつぱり綺麗である。俺は彼の問いかけに頷いた。名前を覚えていてくれるなんて、嬉しい。彼女なんて、長年一緒なのに名前なんて呼ばれたことがない。

「お前にだけは負けねえ……」

男らしい低い声でかなり怒りを込めてあった。そんなものを耳元で聞いた俺はゾッと寒気が走った。

その後、俺は病院のベッドの上にいた。

凍夜君のあの言葉の後、あの身体からでは出ないであろう力で俺の急所を蹴られた。俺は痛がる前に気絶した為、痛みと言うものはそのときは感じなかったが、今でもかなり痛い。

見舞いに来た彼らの姉、藍さんが言うには凍夜君はアイドルをやっている、ストーカー対策として習った護身術のプロらしい。

見た目で人を判断しない方がいいとこの時、俺は思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6939b/>

俺と俺の愛おいしい人 ～勘違いは災いの始まり～

2011年1月2日14時02分発行